

平成15年度各会計決算を認定

歳出総額714億7,650万4千円

平成15年度各会計決算については、15人の委員で構成する決算審査特別委員会を設置。9月17日から3日間にわたり慎重な審査が行われ、本会議最終日の審議の結果、各会計決算とも認定されました。

決算審査特別委員会

決算審査は、予算の収支状況や執行状況の可否を明らかにし、財政運営の適正化を図り、今後の予算執行における指針となるものです。

なお、決算審査特別委員会の委員は次のとおりです。

委員長	平井 栄一			
副委員長	池田 利秋			
委員	藤田 進	竹内 美穂		
	小倉 良夫	菅野 保茂		
	植竹 健夫	川辺 茂		
	船橋 繁雄	木村たか子		
	小俣 文宣	石原 義雄		
	矢口 健一	越智 邦子		
	千久田 祐子			

反対

討論

■一般会計

合併で膨らんだ歳出に対応するため二十億六四〇〇万円の臨時財政対策債を発行したが、当てにしていた地方交付税は、既に総額歳出が抑制され今後危うくなっている。財政の健全化に取り組む姿勢があれば、可能な限り臨時財政対策債を発行せずに残高を累増させないよう努力すべきである。また、人口減少と税収の減少を位置づけた縮小時代のまちづくりへの方向転換もせずに、開発土木事業

の拡張主義で財政悪化を招く市政運営であるため、反対するものである。

歳出の総務費では、職員一人当たりの市民数を六年後には一七人から一三四人とする削減は、どのような根拠なのか道筋が見えない。住民基本台帳カードの発行が当初の見込みを下回っており、有効性も疑わしく、国の言うがままに導入する姿勢が問題である。民生費では、ケースワーカーの残業時間が多く、労働環境への改善が見られない。支援費制度では補正や流用が多く、障害者デイサービス確保への積極的な姿勢が

見られない。シェルター運営ではボランティア団体と担当職員だけに担わせ、新たな事業展開に計画的な予算と人員配置を行っていない。福祉タクシーの利用者助成券は、利用者の利便性を考慮していない。基本健診の有料化は受診者を減らし、結果として新たな患者をつくり出す懸念がある。



現地視察（親野井羽貫線街路整備）

である。

教育費では、保護者や教育現場の意見も聞かずに、二学期制の導入を実施したことは遺憾である。

■国民健康保険特別会計

国民健康保険税の引き下げはもちろん減免制度も導入しない姿勢は問題である。

■介護保険特別会計

介護認定率が十二・一％と近隣市と比較して二ポイント以上も低い。

■下水道事業特別会計

利用効率が低下しており、従来の経過のままの整備を続けられ、一般会計の繰り入れが増加し、市民への負担過重となる。

自治会との裁判で、弁護士着手金を支出しているのは問題である。
土木費では、二年間継続した江川地区の自然保護対策検討業務の策定には必然性も計画性もない。市内道路網の整備では清水公園東駅前線などには積極的だが、生活用道路整備が後回しになっている。七光台及び船形土地区画整理事業を土地開発公社の公金により、企業救済に走ったことは問題



決算審査特別委員会審査風景

■次木親野井特定土地区画
整理事業特別会計
膨大な保留地処分が行き
詰まり、将来の財政への影
響が危惧される。

賛成
討論

■一般会計
合併に伴い、旧関宿町か
らの移行予算が合算された
ため、歳入歳出とも前年と

比較して増額になっているものが多く、合併年度の特
殊性を含んだものとなっている。市民サービスや今後
のまちづくり、財政面など
多角的な観点から合併の事
務事業調整が図られると
もに、新市にふさわしい建
設計画が立案され、これら
の計画に沿った適正な事務
執行がなされた。また、行
政改革大綱の見直しにより
実施計画が策定され、計画
行政を常に念頭に置いた市
政のあらわれであり高く評
価する。

歳出の総務費では、旧関宿
町役場を改修し、図書館や
小ホールなどが設置された。
また、市民の利便性の確保
のために、三路線でまめバ
スが運行され、その成果に
は目をみはるものがある。

民生費では、少子化対策の
一環として、民間保育所建
設助成や病児・病後児保育
等の実施、父子家庭支援手
当て、住宅改造費助成、介
護用品支給等のニーズにこ
たえた施策を実施している。
衛生費では、関宿地域のご
み・し尿の収集業務も委託
され効率化が図られている

が、じんかい処理費では清
掃工場とクリーンセンター
の運転経費が委託費用を除
いても二倍近い開きがある
ので改善を求める。また、
環境美化運動では各自治会
の取り組みで年々増加傾向
にあるが、さらにPRを図
り参加者の増加に努めてい
ただきたい。

労働費では、雇用促進調査
員が継続実施されており、
現下の雇用事情に的確に対
処している。

農林水産事業費では、堆肥
センターの規模拡大に対処
している。今後は生ごみ、
家畜の排せつ物の肥料化を
研究していただきたい。

土木費では、江戸川左岸連
絡道路、阿部沼第一排水区
の六丁四反水路整備に向け
ての調査、野鳥の森整備、
関宿総合公園整備事業等が
着実に実施されている。ま
た、継続実施されていた山
崎吉春緑の堤台工区が開通
し、中心部の交通渋滞も緩
和されるなど、幹線道路の
ネットワークが形成されて
いる。関宿地域における宝
珠花市街地へのアクセス道
路である親野井羽貫線につ

■平成 15 年度各会計決算の状況

区 分	歳入決算額	歳出決算額	
一 般 会 計	42,823,098千円	41,519,860千円	
特 別 会 計	国民健康保険	12,393,512千円	12,193,602千円
	下水道事業	3,695,636千円	3,601,267千円
	老人保健	9,650,740千円	9,539,918千円
	用地取得	237,242千円	162,252千円
	介護保険	4,129,569千円	4,013,303千円
	次木親野井特定土地 区画整理事業	452,441千円	446,302千円
	合 計	73,382,238千円	71,476,504千円

いても道路環境が大幅に改
善されている。

消防費では、平成十六年度
までの継続費として関宿地
域への消防署出張所の建設
事業が計上されている。ま
た、通信指令装置の導入に
より、指令業務の迅速化が
図られ消防・救護活動が
強化された。

教育費では、小学校七校、
中学校三校へのパソコン設
置及び校内LAN整備によ
り、情報教育の充実が図ら
れている。

■各特別会計
その目的に沿った適切な

予算執行がなされたものと
認められるが、特に、国民
健康保険、介護保険及び下
水道事業の各特別会計は、
不納欠損や収入未済額が多
く、収納率の向上に一層の
努力を要望する。

■水道事業会計
上花輪浄水場からの遠方
監視制御及び中根配水場か
らの遠方監視体制を図るこ
とで、市内全域の運転状況
を中央で把握することが可
能となり、常時管理してい
た木間ヶ瀬浄水場の無人運
転が可能になったことを評
価する。